

平成22年第4回八峰町議会臨時会会議録

平成22年6月30日（水曜日）

議事日程第1号

平成22年6月30日（水曜日）午前10時開会

- 第1 会議録署名議員の指名  
第2 会期の決定  
第3 諸般の報告  
第4 議案第75号 平成22年度八峰町一般会計補正予算（第3号）

出席議員（14人）

1番 松岡清悦	2番 見上政子	3番 柴田正高
4番 丸山あつ子	5番 門脇直樹	6番 腰山良悦
7番 皆川鉄也	8番 福司憲友	9番 山本優人
10番 佐藤克實	11番 阿部栄悦	12番 鈴木一彦
13番 芦崎達美	14番 須藤正人	

欠席議員（0人）

説明のため出席した者

町長	加藤和夫	教育長	千葉良一
総務課長	岡田辰雄	会計課長	伊藤進
企画財政課長	米森昭一	福祉保健課長	佐々木充
管財課長	伊勢均	税務課長	小林孝一
学校教育課長	辻正英	生涯学習課長	齊藤英市郎
産業振興課長	須藤徳雄	農業振興課長	松森尚文
建設課長	武田武	幼児保育課長	加賀谷敏一
農業委員会局長	小林慶範		

議会事務局職員出席者

午前10時00分 開 会

○議長（須藤正人君） おはようございます。

これより平成22年第4回八峰町議会臨時会を開会します。

ただいまの出席議員数は14名です。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第117条の規定により、10番佐藤克實君、11番阿部栄悦君、12番鈴木一彦君の3名を指名します。

日程第2、会期の決定を議題とします。本臨時会の会期は、本日1日限りとしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と叫ぶ者あり）

○議長（須藤正人君） 異議なしと認めます。したがって、本臨時会の会期は本日1日限りと決定しました。

日程題3、諸般の報告を行います。

議長報告につきましては、別紙報告書のとおりでありますので、朗読は省略をさせていただきます。

加藤町長より発言を求められておりますので、提出議案の提案と併せてご報告願います。加藤町長。

○町長（加藤和夫君） 皆さん、おはようございます。

本日、平成22年第4回八峰町議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様にはお忙しい中、出席をいただき誠にありがとうございます。

早速ではございますが、今臨時会に提出しております1議案についてご説明いたします。

議案第75号、平成22年度一般会計補正予算（第3号）につきましては、既定額に1,290万6千円を追加して歳入歳出予算の総額を54億7,809万8千円とするものであります。

この主な内容は、農林水産物処理加工施設に対する補助金や管理委託料など1,214万5千円とスポーツ少年団派遣費76万1千円であります。農林水産物処理加工施設については、当初計画の甘さがあったことを始め、議員の皆様方には大変ご心配やご迷惑

をおかけしたことを率直にお詫びを申し上げます。これまで2度にわたって議会全員協議会において説明してまいりましたが、特産品開発など当町の地場産業振興のため、ようやく本格的生産販売ができる体勢になってきた同施設を町が支援しながら事業促進を図ろうとするもので、備品購入費、指定管理料の設定及び新技術開発研究費補助金を予算計上させていただいております。

どうぞ、よろしくご審議の上、適切なご決定を賜りますようお願い申し上げます。

以上であります。

○議長（須藤正人君） 日程第4、議案第75号、平成22年度八峰町一般会計補正予算（第3号）を議題とします。

当局の説明を求めます。米森企画財政課長。

○企画財政課長（米森昭一君） おはようございます。

予算関係につきましては、副町長が担当しておりましたけれど、副町長が空席となっておりますので、代わって私が議案第75号、平成22年度一般会計補正予算（第3号）について、その概要を説明いたします。

最初に歳入歳出予算の補正です。第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,290万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ54億7,809万8千円とする。2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額ならびに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」によります。

次に5ページをご覧ください。2の歳入でございます。補正額の総額は1,290万6千円でございますが、補正財源といたしまして全額、前年度繰越金で対応いたします。

次に6ページでございます。3の歳出です。4款衛生費、1項保健衛生費、2目予防費でございますけれど、補正額はゼロでございます。6月17日の補正第2号で可決いただきました子宮頸がん予防接種補助金の予算を組替する内容でございます。予防接種の実施につきまして、能代市山本郡医師会と協議した結果、一部を除きまして医療機関への委託方法で実施するということに変更しております。そのため、19節の負担金補助金及び交付金から任意予防接種補助金882万円を減額したしまして13節の委託料に同額を補正計上するというものでございます。次に7款商工費、1項商工費、2目商工振興費でございますが、補正額は1,214万5千円でございます。補正の内容でございますが、6月25日の全員協議会でもご説明いたしましたが、農林水産物加工施設に関連する補正を行うものでございます。11節需用費に消耗品費として23万1千円。1

3節委託料に農林水産物加工施設指定管理料といたしまして400万円。それから、18節備品購入費に施設用備品購入費として91万4千円。19節負担金補助及び交付金に新技術開発研究費補助金として700万円それぞれ補正するという内容でございます。

次に10款教育費、5項保健体育費、3目スポーツ少年団総務費のスポーツ少年団派遣費補助金でございますけれども、教育委員会の項目となっておりますが、引き続き私の方からご説明申し上げます。補正額は76万1千円でございます。6月12日に開催されました第30回全日本学童軟式野球秋田県大会山本郡予選におきまして八森ブルーウェーブがみごと準優勝をなしとげまして、7月31日から開催されます秋田県小学生野球協会交流会の参加費用につきまして補助金として交付したいというものでございます。

以上、説明を終わります。

○議長（須藤正人君） これより議案第75号について質疑を行います。質疑ありませんか。  
1番松岡清悦君。

○1番（松岡清悦君） 予防費のことでお尋ねをいたします。子宮頸がんのワクチンの助成。まあ、八峰町は全額助成ということで、これは評価に値すると思います。

ただ、この接種の内容ですが、私はできることなら学校での集団接種を希望しておりました。

ただ、前回の説明の際に、なかなか集団は難しいというお話でした。これは、医師会の方がそうなのか、学校側がいま一つその集団接種には協力的ではないのか、その辺のいきさつをもう一度お知らせいただきたいと思います。それから、今の説明で委託料で医療機関を指定してそこでやってもらうということになると思います。私の想像ですが、約3回子供さんと一緒に当然中学生が主ですので親御さんが連れて3回連れて行かないと駄目だ。これは親にとっても大変な……。土日に出来るわけではないので大変な負担になるのかなという、そういう意味で本来ですと集団接種を希望したわけですが、その辺の流れの中、それともう一つは、子どもたちを相手にこの子宮頸がんという名前からきて誤解を招いている部分も少なからずあります。一旦誤解をされると大変ですので、この辺の周知徹底ですね、予防接種、ワクチン接種なんだということを早めに、これはできれば集団でやって欲しいですが、親御さん、あるいは子どもたちに徹底して、出来れば予算額全額使えるように、いわゆる100%出来ることを目指すためにも今後の計画を教えてください。

○議長（須藤正人君） ただいまの1番議員の質問に対し、答弁を求めます。佐々木福祉保健課長。

○福祉保健課長（佐々木充君） はい。

まず集団接種ということって言うんですかね。町の方としては、接種率を上げたいということで、当初は、「集団接種」ということを前提にしてちょっといろいろ取り組んだ経緯があります。

ただ、最終的にはですね、皆様もご承知のとおり、このワクチンというのは、世界では割と何年前からやっているのですが、日本では去年の10月から承認されて、12月から接種が始まっているということで、医師会さんのあるお医者さんとお話しますと、どうしても万が一ですね、集団接種でやった場合、対応的に万が一のことを考えると非常にこう集団接種には、はっきり行って現時点では取り組むのがちょっと困難だと。そういうお話をうかがいまして、その中でちょっとこちらの方でも、実際集団接種するのはお医者さんですので、そういう意味で集団接種、今回については、ちょっとこう見送りすると、そういう経緯があります。それでまあ確かに、これは3回接種するわけで、まあいろいろまあ、非常に中学生となると親御さんと一緒に行くことになるかと思えますけれど、負担は当然発生するわけですがそこいらへの事情、今の時点ではなかなか集団接種にちょっと踏み込めないということでご理解願いたいと思います。これについては、今後進みますと、全国では集団接種をやっている例が全くないわけではありません。そういうのもありますので、もう少し地域、あるいは秋田県、それから全国でこういうのが普及するとすれば、そういう方向にも進んでいくのかなと、そういう段階ですので、ちょっとご理解をいただきたいと思います。

それから、「誤解の招くことのないように」ということなので、前回も言いましたけれど、まず、説明会をやりながら、今考えているのが接種率を高めるために個別の対象になる方にも通知等しながらですね、やっていきたいなど。それから、もう一つ、あの先ほどの話とかち合いますけれども、お医者さんの立場だとやっぱりこのワクチンの必要性或いはこれだけで済むんじゃないんですよと。いわゆるこの後の検診というんですかね、そういうのも大切なんですよということをする意味の個別接種でお医者さんが説明した方がいいのではないかと。そういうこともあります。

まあ、いずれそういうことで、今、松岡議員の方から言ったように誤解を招くこと

のないようにということで、出来るだけ接種をやってもらいたいということで取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） やはり予防費のことですけれども、1番議員さんの方からも同じ質問がありましたが、私はちょっと別の方向から。

あのですね、大変全国的にも全県的にも先駆けてやられるということは大変大いに評価されるんですけども、これは癌対策ですので、本来は国・県がもっと責任を持ってやっていかななくてはならないこの事業を八峰町が先駆けてやるということは大変結構なのですが、県の方の動向とか、「検討する」という記事がありましたが、その後の県の方の状況、何か把握していますでしょうか。

それから、昨日、一昨日でしたか、高橋クリニックの方から北羽の方に記事が載っていましたよね。あれ大変いい記事だったと思います。やはりこれは行政の責任でやらなくてはならないということですので、この点ですね、医療機関に委託することですが、これは八峰町の医療機関も入るのか。それとも、婦人科がこれを予防接種することになるのか。その辺のところを教えてください。

○議長（須藤正人君） 2番議員の質問に対し、答弁を求めます。佐々木福祉保健課長。

○福祉保健課長（佐々木充君） はい。それではお答えします。

まず1点目ですね、「癌対策の対応をするべきではないか」と言うことの流れで県の動向って言うわけですね。これは前に知事の記者会見っていうんですかね、でましたけれども、その後ですね、県でどういう対応をとるのかうんぬんについては、ちょっとあの把握しておりません。担当者レベルで県の方にお伺いした経緯もあったんですけども、まだ具体的なものについては、ちょっと示されてないという、そういう話でした。

それから、2日前ですか。高橋先生の記事が載って。まあ、非常にわかりやすく要約しております。それで医療機関の関係、どこでやるのかということですけど、これは医師会の方にワクチン接種の協力医療機関ということで、能代市山本郡の医師会の方に事務局を通じて、この接種に取り組んでいただける能代山本地域の医療機関を紹介していただくことになっています。で、これについては、まもなく医師会の方で取りまとめて町の方に通知がされますので、今現在でどれくらいなるのかっていうのは

ちょっと私の方で把握しておりません。

以上です。

それで、もう1点ですね、どこの婦人科あるいはお医者さんの種別というか専門家の話ですが、これについては特別制限がないようなので、それにまあ、取り組んでくれる医療機関であればどこでもいいというような内容です。

以上です。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） 県の方でも癌がワースト10何年も続いているということで、対策がとれないかということで、一般質問が出されて、その後、県知事も「検討する」と答弁があったようです。で、今日は県の新婦人の会でやはりこれをヒブワクチンと一緒にこれをやって欲しいということで、交渉をやるような、そういうふうな動きになっています。これを町の方でも国とか県の方にどんどんこれは、もちろん行政が市町村のやることは一番町民に責任を取っているというところですので、やるのはあれなんです、やはり働きかけていくということも大事なのではないでしょうか。それと、他市町村の実施例がまだわからないようですけど、是非これはね、ここに出す前に潟上市とか東由利とか・・・やっていますよね。そこをやっぱりこの場に出せるような資料を当然出すべきではないかと思います。実施するからには、やっぱりどのように実施していくのか。先ほども1番議員さんが言われましたけれども、やっぱりこれ100%完璧にやるんだという意気込みを町民に知らせていく必要があると思います。

この点、まだわからないようですがわかり次第、私たちの方にも教えてもらいたいと思います。

○議長（須藤正人君） 答弁を求めます。佐々木福祉保健課長。

○福祉保健課長（佐々木充君） はい。

まあ、県内の状況についてですけれども、これはつい最近ってということで、ご理解願いたいと思いますけれども、県の方でも急遽全県の市町村の状況について6月15日現在で内容の報告を求めて私の手元には2・3日前でなくて、昨日ですね、もらったものがあります。それによりますと、全県25市町村のうち、今回で7市町村がなんらかの取り組みをするということです。

で、その内訳的にいきますと、全額助成するという自治体が3自治体、もちろん対象はいろいろあります。それから、3分の2を助成するっていうのが1自治体。それ

から、2分の1を助成するというのが2自治体。それから、3分の1を助成するというのが1自治体ということです。ただ、対象はですね、やっぱりメインになるのは中学生ですけれども、由利本荘市さんはいち早く実施するというので新聞に載っていましたが、これは10歳から45歳までと非常に幅広いものです。あとはですね、ほとんどが中学生がメインで、あと仙北市の場合は、小学校6年から中学校3年ということで、いずれ予防効果が一番高い世代を中心とした助成内容となっております。

以上です。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） 予防費の方はこれとして、別の質問をしてもよろしいですか。

○議長（須藤正人君） どうぞ。

○2番（見上政子さん） それじゃ、農林水産加工設備・施設の方で質問いたします。

2回に渡って全協で説明がありました。結果的には、本当に間に合わない事業だになってというのが私の認識としてありますけれども、このいただいた資料によりますと人件費とそれから指定管理料のところに人件費・動力光熱費・販売促進費、それで400万円を計上して、25年度までの予算が出ています。この400万円に当たって、これを本当にこのとおり町として400万円続けていくのか、これはなんらかの毎年毎年町に計上されるのかということと、それから労働費の面でですね、人件費が233万円。これを賃金1人分と動力光熱費ということなんですが、これは本当に恒常的な経費でありまして、これがないと塩をもう作れない、本当に基本的なところの経費ですよ。この経費を町の方から出さないとやっていけない、こういうふうであれば、もうそもそもおかしいのではないかとということと、これが23年度までの県の補助と緊急雇用促進の方の費用で賄われています。これが23年度で切れるわけですが、この雇用促進・・・労働費が切れた後の人件費ですね、これはどのようにやっていくつもりなのかその点まずお聞かせをお願いします。

○議長（須藤正人君） 2番議員の質問に対し、答弁を求めます。須藤産業振興課長。

○産業振興課長（須藤徳雄君） はい、見上議員のご質問にお答えいたします。

まず、今回の指定管理料400万円について、今後も続けていくのかとの話ですが、これも全協でお話しましたが、今回の400万というのはまず22年度の分ということでございます。23年度以降については、この会社、それから今回予算が通ればこの財源を元に早期に改善していくという努力を始めるというはずでございますので、そういった

中でまた結果が出てくると思います。23年度以降はその後でまた、多分、新年度予算が編成される3月定例議会あたりにそのものが出てくるであろうと。

それから門脇議員からご指摘があったとおり、「半期毎にこの経営状況を報告する」ということでございますので、400万というのは今回の22年度の指定管理料となります。

それから、「その中に人件費が入っている」というのはそのとおりでございます。当初から、当初見込みが甘かったというのも町長が話しております。今回、22年度におきましては、どうしても塩もろみの生産そして販売で、この人件費で追いつかないということから人件費一人分、それから動力光熱費、それから販売促進の関係のもので400万円というものを出したものでございます。ご理解いただきたいと思っております。

それから23年度で「県のふるさと雇用が切れる」ということについても、皆様に全協の際に今後の計画というものを出してしておりますので。その中を見ていただくとわかるとおり、その後についても経営の努力によりそれを賄っていかうというようなものを示しておりますので、この計画になるように努力していくということでございます。

よろしく願いいたします。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） はい。この資料によりますと、売り上げは本当に万単位の売り上げになっています。大手の企業から今後おはよう納豆とかほかの方からも契約してってことにはなりますが、これはいつ頃こういうふうな契約の結果が出てくるのでしょうか。

○議長（須藤正人君） 答弁を求めます。須藤産業振興課長。

○産業振興課長（須藤徳雄君） 結果という話でございますが、これも相手方がある話でございます。現在そういうお示しした会社等については、交渉中であるということでございます。ですから、我々も例えば今回の段階で1社、2社なりに大口がでてくれば非常に助かるわけでございますが、現在、交渉中でございますので、先程言ったとおり6ヶ月半期半期中でお示ししたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） やはり先が見えてきません。はっきりした契約も今後取れるかどうか、まあ、これからの頑張り次第だということです。塩の売り上げも微々たるも

のです。まあ、このような事業に対して町民からはやはり非常に厳しい目が寄せられていると思います。この1,200万円で、今年度だけで終わるという見込みではありません。この塩もろみにどうしても必要な91万4千円の物さえも、まあ塩もろみと同時に購入することが出来なかった。こういうふうなものが次から次とこう出てくるのではないかということが危惧されます。

で、この1,200万円の金額。これがあれば、いろんな面で臨時議会の中でも話ができましたが、1,000万円あれば小学校卒業までの医療費の無料化もできますし、国保のさらなる値下げも出来ます。この今後の町の持ち出しがこれでとどまることはないのではないかと思います、一言答弁をお願いします。

○議長（須藤正人君） 答弁を求めます。須藤産業振興課長。

○産業振興課長（須藤徳雄君） 全協の際にも議員の皆様方からさまざまなご指摘・ご提言がございました。

これは町としても今回1千数百万という支出をする。というものに対して非常に重く受け止めております。直近の会社の経営者並びに社員が集まるミーティングの際には議員の皆様からいただいたそういった意見やご指摘、これを率直に伝えるとともに今後は、町・会社が一体となって健全化に向けての取り組みをしていきたいと。これしか言いようがございません。よろしくお願ひいたします。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） 町長にお伺いしたのですけれど。

「塩もろみ」というこの塩もろみ自体。まあ、先回集会を開いて試食したとかありますけれども、塩もろみの販売が本当に普及出来る内容のものなのかどうなのか。だいぶ前に私も質問しましたが、寒麴、くず米を使ってつくる、農家の人達がつくる寒麴。これが非常に評判がよくて、「塩もろみと寒麴どっちがいいか」ということで、東京の方に送ってやったら、「寒麴の方があっさりして美味しかった」というふうな評判もあります。本当に今後、塩もろみというのが若い人達にも本当に馴染みのできるものなのか、それからこの前ミーティングと言いますか試食会やったメンバーというのは何かのついでに集まったような特別町民から募ったアレではなかったようだけれど、もっともっとこれをどのように普及するのか、塩もろみそのものとこれから一部分だけの人々がこれを試食してということにならないようにするためにも何かお考えがありましたら教えてください。

○議長（須藤正人君） 答弁を求めます。加藤町長。

○町長（加藤和夫君） 塩もろみは前にもお話しましたけれども、寒麴とは違って全国まだどこでも発売していない素材でございます。従いまして、これからの売り込み次第ということになりますけれども、ただ、いろんな食品の業界では、この有用性についてかなり注目しておりますし、そういう意味で、申し上げてきた大手の方でも非常に注目をしているし、具体的に欲しがっている所もあるというふうな状況であります。

したがって、さっき課長が言ったように、現在それらの所との交渉中ということではございますので、これを契約できればある程度の量はコンスタントに捌けてくるのではないかなというふうに会社の方では見えています。

それから、先日の全協でも話されたとおり、この事業に当たって出来るだけこれを使って町の中で特産品を開発しながら、それを売り込んでいこうと。それによって、やっぱり町民がそれだけの売り上げを確保していくっていう方向が必要なわけでございますけども、そうは言っても会社の経営等の問題もございますので、出来るだけそういう経営が成り立つような方向での売り込み先を確保しながら、今、見上さんがおっしゃったように町民への普及も図るといふ両面から行かなければならないわけですので、これまでいろんな形で試食会とか白神カルチャールームで開発されたものについてやってきたわけですが、まだまだ一般の方々に対する普及する余地は十分ございますので、この後町民を対象とした、そういった形のものを随時やるように会社とかも連携をしながら頑張っていきたいなと思っているのでよろしく願いいたします。

○議長（須藤正人君） ほかに質疑ありませんか。ほかに質疑がないようですので、これで質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。2番見上政子さん。

○2番（見上政子さん） この補正予算の中には、子宮頸がんと農林水産加工施設の補正予算が入っています。私はこの予防費の子宮頸がんについては、これは大賛成です。

是非100%なるように実施して欲しい。また、国・県に働きかけて欲しいと思っております。

ただ、この農林水産加工施設は、まだまだ海のものとも山のものともわからない、はっきりしたものがないままに町の大事なお金を多額の金を注ぎ込んで、「これでいい」という制限のないまま進んでいいのかどうなのか。これは大変町民の人達も注目

しております。私はこの点については、まだまだ、塩もろみ自体もはっきりしていない、こういう中で、多額の金を注ぎ込んで行く、まだその中身が出来ていないと思います。

こういう点で、この補正予算に盛り込まれた金額は私は反対をいたします。

○議長（須藤正人君） ほかに討論ありませんか。3番柴田正高君。

○3番（柴田正高君） この食品会社につきましては、設立当初から町が深く関わって設立された会社だということですが、会社法に添って設立された民間企業であります。

この1民間企業にですね、いかなる理由付けがあろうと、多額のお金を注ぎ込むというのは町民の理解・納得を得られるものではないと思います。

指定管理料につきましては、会社との協議の中で町が適正であると認める範囲内で議会も通っておりますので、まあ、この400万につきましては、適正な範囲かというのは疑問をはさむ点であるんですが、良しといたしましても、700万につきまして補助金という形出すわけですけども、私はこの補助金ではなくて、町の出資金という形出すべきではないかなと。そうすれば会社が軌道に乗って黒字化されれば、出資金であれば町で引き上げることができます。補助金であれば与えるだけでありますので、こういう観点から私は提出議案につきましては、反対をいたします。

○議長（須藤正人君） 賛成討論はありませんか。1番松岡清悦君。

○1番（松岡清悦君） 賛成の立場で討論をいたします。

さまざまな、この会社のスタートから始まって、さまざまなことがありましたし、今不安視されることもたくさんあります。

ただ、私どもは、この会社あるいはこの今回の目指す八峰の産業振興の一翼を担うという観点では、当初から地域が、あるいは地域の産業がどんどんどんどん衰退していく。

特にその中でも農林漁業。一次産業。なんとかしてテコ入れする、或いは、力添えをして、地域を盛り上げないといけない。

全国どこでも同じであります。それぞれのおかれた地域、この特性を生かして初めて地域振興が図れるものだと私は信じております。私どもは運よく、白神山地の麓に位置し、今回の塩もろみも特にそこの微生物を使ったいわゆる地域特性の最たるものだと確信をしております。

商いは簡単には軌道には乗らないと思います。ただ、私どもはそれでもやはり地域

の振興をめざして町と会社と一緒にあって、さまざまな意味での起爆剤。これに期待をかけています。

そういった意味で、今回の予算には「会社が頑張る」と意欲を買って賛成をいたします。

○議長（須藤正人君） ほかに討論ありませんか。7番皆川鉄也君。

○7番（皆川鉄也君） 私も賛成の立場から討論に参加してみたいと思います。

今、1番議員さんからいろいろお話がありましたように、やはり「特産品を開発する」ということは、今、最も期待されております雇用確保に繋がることでありますし、町内に1社でもこういった会社があることによって、特産品を生み出すといった活路が生まれるものであるのならば大変結構な仕事だろうというくらいに思います。

また反面、さきほどよりお話がありますように多額の血税をこれに投入するわけありますから、やはり町民の皆さんに説明がつくような会社の経営戦略なり、健全経営のあり方を強く表に出していかないとこれは議会に対しても町民の目が厳しくなるのではないのかなというような気がいたします。

やはりここで、これを可決するにしても、きちっとした計画性を持ったやり方でないとまずいだろうとそんな気がいたします。従いまして、会社の尚一層の経営努力を期待しながら、本案に賛成をいたしたいと思います。

○議長（須藤正人君） ほかに討論ありませんか。10番佐藤克實君。

○10番（佐藤克實君） 私はこの補正には賛成の立場からお話したいと思います。

町長も諸般の報告の中で「ようやくこの塩もろみが目に見えるような形で商品化できた」とお話がありました。そういったことで、町が主導でこの事業を進めてきて民間の株主さんに委託してきたという経緯がありますけれども以前にも私が申しましたけれどもやはりこういった事業というのは非常に難しいところがあって、ある程度時間がかかるんだというお話をしたこともございます。今ようやくこの時点において、もろみが完全な形で商品化できてきたという、この時点で本来であれば指定管理するのが当たり前かなと思うんです。これまで2年間、商品開発をして、売り上げが殆どない状態で、やはりこれは当初、町が計画した採算性の問題。これが非常に甘さがあったと思いますし、これは町も我々議会側も責任があると思うんです。

で、その採算の計画性っていうのは、ちょうどこれからが当てはまる計画書になるのかなという感覚をもっております。それこそ1番議員、皆川議員がお話したとおりやは

り今後ですね、八峰町の雇用・特産品の開発・産業振興のためには欠かせない事業であると思います。町もやっぱり大きくかかわりながら、そして町議会もかかわりながらこの後の運営・経営にやはり関与していきたいと思いますので、そういった意味において、今回の予算は水産物加工処理場だけでなく、教育費または子宮頸がんの予算もありますけれども、すべてに対して賛成したいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（須藤正人君） ほかに討論ありませんか。11番阿部栄悦君。

○11番（阿部栄悦君） たくさんの議員の方々からいろんなご意見が出ました。

特に見上さん、柴田さんの言われる心配することも十分わかるような気がいたします。

しかし、長い間、この地方が停滞して元気がない。だから、地方を元気にするために民間ばかりに任せておかないで、行政も積極的にこういう開発の事業に応援もしなければいけない。「何を言ってる」と、「何をやっているんだ」と意見さえ出てきている時代でもあります。町民のお金を大事に使わなければならないことはそのとおりであります。しかし、いつも手を拱いていては前進もない。そこで、やっぱりこれは、将来この町のためになるんじゃないかというものについては、やっぱり出来るだけ後押しをしていかなければならない。議会には、町民の気持ちを十分組んでお金を大事に使うという意見とともに、同時に、これはこの町の将来の発展のために役立つというものの芽を摘んではいけない。むしろ、後押しして伸ばしていかなければならないという使命もあると思います。

だから、そういう意味で、会社の今後積極的な期待と町もまた一生懸命後押ししていくという姿勢、それを総合的に担い合わせながら、この事業がなんとかして発展していくように、新しい産業が開発されるように祈る、望むということで私も賛成いたします。

○議長（須藤正人君） ほかに討論ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（須藤正人君） ほかに討論がないようですので、これで討論を終わります。

これより議案第75号を採決します。この採決は起立で行います。

本案に賛成の人は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（須藤正人君） 起立多数です。

したがって、議案第75号は原案のとおり承認されました。

これで、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。平成22年第4回八峰町議会臨時会を閉会します。  
ご協力ありがとうございました。

---

午前10時46分 散 会

署 名

上記会議の次第を記載し、これに相違ないことを証明するためここに署名する。

八峰町議会議長 \_\_\_\_\_ 須藤正人 \_\_\_\_\_

同 署名議員 10番 \_\_\_\_\_ 佐藤克實 \_\_\_\_\_

同 署名議員 11番 \_\_\_\_\_ 阿部栄悦 \_\_\_\_\_

同 署名議員 12番 \_\_\_\_\_ 鈴木一彦 \_\_\_\_\_